

令和7年6月5日

令和7年度病害虫防除技術情報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウの発生に注意してください

5月以降、シロイチモジヨトウ（図1）とハスモンヨトウ（図2）のフェロモントラップによる誘殺数が平年より多くなっています。今後、スイカ、ナス等の野菜類や花き類で幼虫による被害発生が予想されますので、防除対策を徹底してください。



図1 シロイチモジヨトウ（左：卵塊、右：幼虫）



図2 ハスモンヨトウ（左：卵塊、右：幼虫）

1. 対象地域：県内全域
2. 発生時期：6～11月
3. 対象作物：野菜・花き類
4. 発生状況
 - 1) フェロモントラップによる5月の雄成虫誘殺数が、平年を大きく上回っています（図3）。
 - 2) 県中部のスイカにおける5月中旬のシロイチモジヨトウ被害果率は0.1%（平年0.1%）でした（表）。5月に被害果の発生が認められた平成29、30年は6月の被害果率が高く、本年も今後高まる可能性があります。
 - 3) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう1か月（5月31日～6月30日）の平均気温は高い確率が40%とされています。今後、気温が高く推移し、幼虫による被害が多発するおそれがあります。
5. 防除対策
 - 1) シロイチモジヨトウやハスモンヨトウは広食性で、畑作物、野菜、花き等、多くの作物を加害するため、圃場をよく見回り、早期発見に努めてください。シロイチモジヨトウの幼虫は作物の芯部に潜り込む性質があります。
 - 2) 卵塊や分散前の幼虫は、見つけたい捕殺してください。
 - 3) 幼虫が中～老齢になると薬剤の防除効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底してください。
 - 4) シロイチモジヨトウの成虫に対しては物理的防除（黄色蛍光灯、防虫ネット被覆）や性フェロモン剤による交信攪乱などを併用してください。
 - 5) シロイチモジヨトウについては、ジアミド剤、ピレスロイド剤等に対して感受性の低下が報告されています。ほ場内でシロイチモジヨトウの発生が確認された際、これらの薬剤の使用は控えてください。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用を避けてください。
 - 6) 薬剤については、最新の登録情報（農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用してください。

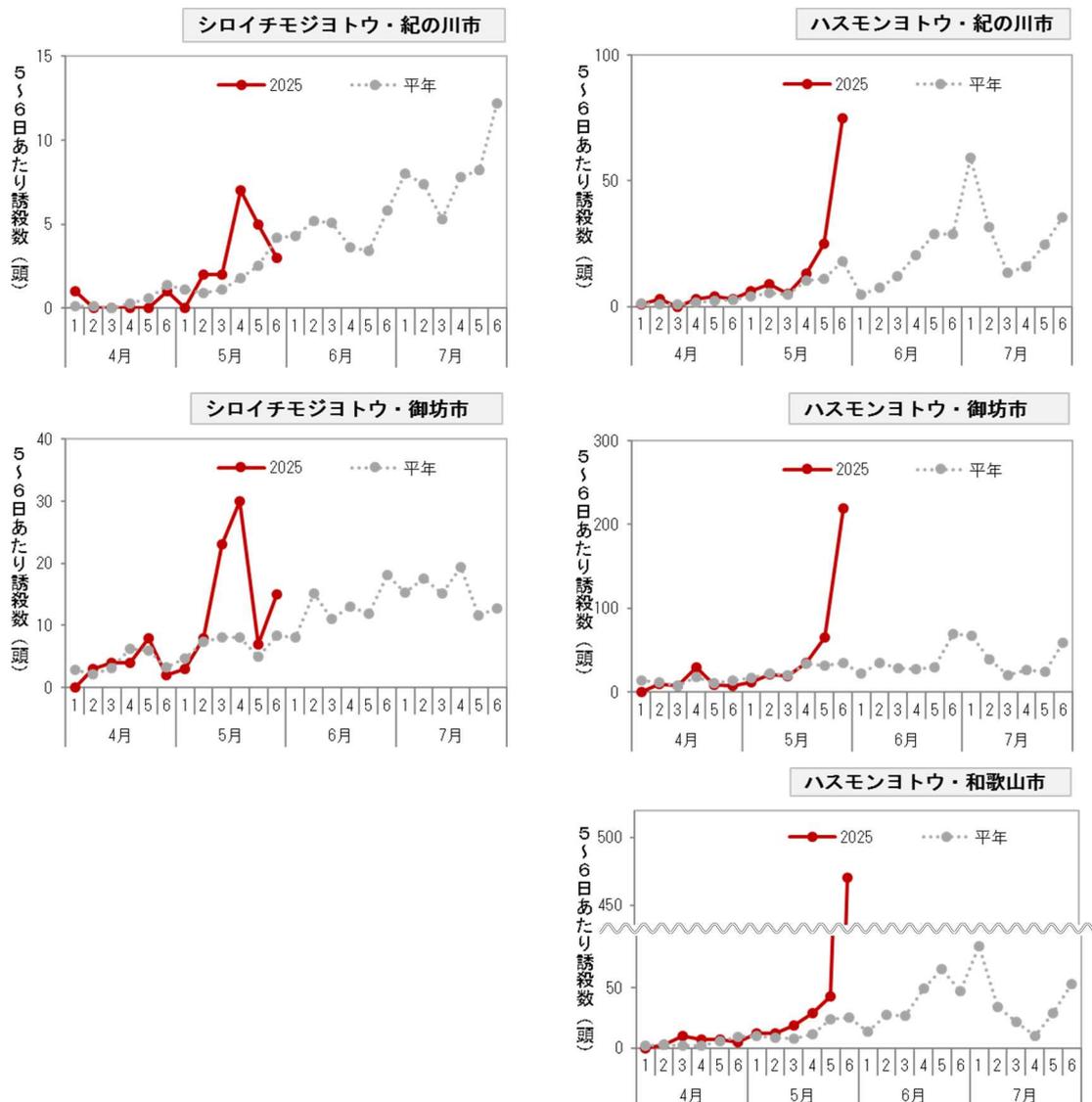


図3 フェロモントラップによるシロイチモジトウ及びハスモンヨトウ誘殺数の推移
 ※図の横軸の数字は半旬（1：1～5日、2：6～10日、3：11～15日、4：16～20日、5：21～25日、6：26～30または31日）を示す。

表 県中部の露地栽培スイカにおけるシロイチモジトウ被害果率（％）

	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	平年	令和7年 (本年)
5月	0	0	0.7	0.8	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1
6月	0	1.3	23.1	16.8	1.0	3.1	0.9	1.4	0.2	0.4	0.4	

和歌山県農作物病害虫防除所
 電話：0736(64)2300